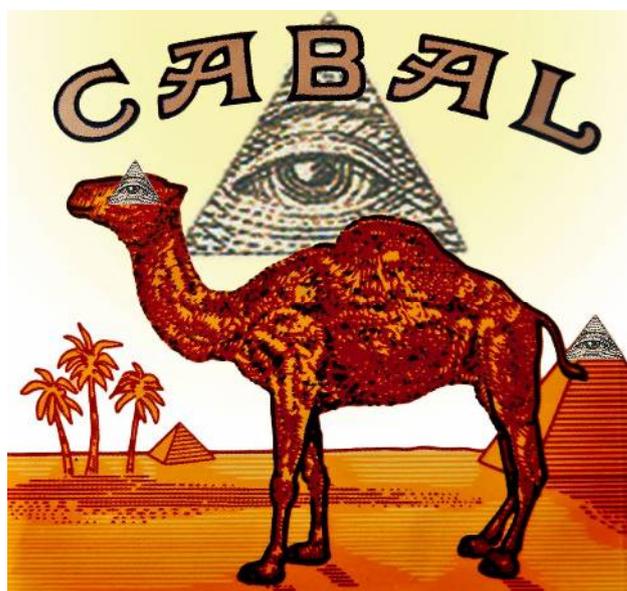


370 便機：「陰謀団」の背骨を折る最後のわら？（4の3）

David Wilcock

April 7, 2014



Hairy Buffalo Punch

私の父のベトナム戦争での親友だったレギー・テイラーが、今年の初めに亡くなった。彼を記念して私は、子供のころに彼が私に話してくれた、私の好きな話をしようと思う。

レギーは戦争後、仲間がそれぞれ好きなビールやワインや強い酒を持ち寄って、大パーティーを開いたものだと話した。

すべてのアルコールが、バスタブのような大きな器に注ぎ込まれた。新しい人が新しい何かを注ぐ度に、絶えずそれは変化し進化し、彼らはできたものを飲んだ。

そうしてできたものは“ヘアリー・バッファロー・パンチ（ポンチ）”と呼ばれた。

レギーは「それはうまくいったのだが、誰かがペッパーミント・シュナップスを加えた途

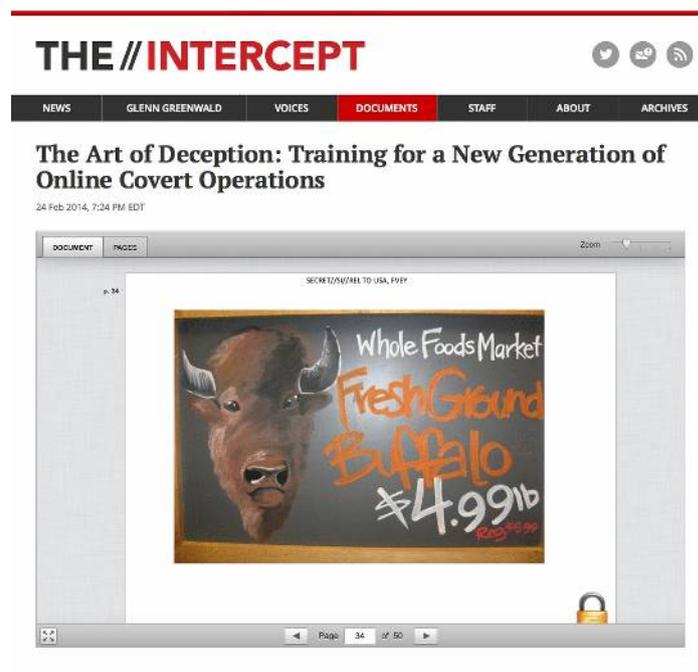
端にえらいことになった」と話した。

「どうなったのですか？」と私。

「みんながゲロゲロやり出したんだよ。ひどいものだった」と彼は笑った。

多くの点で、我々が現在、世界のメディアで見ているニュース項目は、究極のヘアリー・バッファロー・パンチの風呂桶を混ぜているようなものである。

どれがペッパーミント・シュナップスになるのか？



まさかそんなことが・・・

私が言おうとしていることは間違いじみて聞こえるかもしれない——が、それは真実でありうる。

もしMH370 便機が、リモート・コントロールで、ディエゴ・ガルシアという名のインド洋の巨大な米軍基地へ誘導されたとしたらどうだろう？

もし、あるとてもよく似た無人機が、すでに爆薬を装備していたとしたら、どうだろう？

もし、この無人機が2014年3月24日にハーグへ飛ぶように計画され、世界のトップ53カ国の国家首脳を同時に殺す計画だったとしたら、どうだろう？

あるボーイング777貨物機が、その日にハーグへ向かっている途中で、2機のF-16戦闘機によって現実に横取りされ(リンク)、その飛行経路から方向をそらされたとしたら、どうだろう？

The image shows a screenshot of a CNN World news article. The page has a red header with the CNN World logo and navigation links. The main headline is "Fighter jets intercept plane that breached summit flight restriction" by Matthew Hoye, dated March 24, 2014. The article text describes how the Royal Dutch Air Force scrambled F-16 fighter jets to intercept a LAN Cargo Boeing 777 that had entered Dutch airspace without proper clearance. The plane was escorted to Germany. A sidebar on the right contains social media sharing options and a "CNN TRENDS" section listing Chile, South Korea, Malaysia Airlines, and Stolen Gauguin.

このストーリーは、CNNによって主流メディアに静かに報道されたのだが(リンク)、370便機には結び付けられなかった——のだとしたらどうだろう？

いったいなぜ、軍産複合体は、あきらかにその重要ないくつかの国家のリーダーを、殺そうとしたのだろうか？

この軍産複合体は、見世物のように劇的に敗北する瀬戸際にあるのだろうか？

あの部屋の人たちの一部が、この計画を確実に成功させる責任者だったのだろうか？

このような身の毛もよだつ事件は、完全破壊的な新しい戦争をつくり出すのだろうか？

ある巨大な新しい戦争だけが、軍産複合体が最終的に敗北するのを食い止めるための、人

の注意をそらす手段なのだろうか？

第三次大戦を起こすにはどうすればよい？

世界大戦を起こすためには、真に十分な引き金が必要だろう。それは、人々が即決裁判を要求するほど影響が大きく、恐ろしく、大きなトラウマとなるものでなければならない——まず撃て、質問はあとだ！

誰も、犯人が誰であるか正確には知らない——メディアが信ずるように教えるもの以外には。

政府はこの巨大な民衆の不安を利用して、人々を問答無用の巨大な戦争に動員する。

第一次大戦の暴虐に火をつけられた大英帝国は、200 万の完全な義勇軍を呼び集めた。

大英帝国はまた、ある年齢範囲内の若者を強制によって徴兵した。

他の多くの国々もまた、命令によって自国の若者たちを兵役に狩り出した。

多くのカネ、もっと多くの時間

ある種の出来事は、世界大戦を始めさせるに十分な、民衆の激怒をつくり出すことができる。

誰も考える時間も与えられず、気がつくやいなや、何百万という人々の機械化された殺戮がすでに始まっている。

防衛予算が爆発的に増大し——そして巨額の利益が軍産複合体へ転がり込む。

そのとき、軍産複合体が直面していたかもしれない、他のどんな争点や問題も、新しい戦争への狂ったような関心の集中と恐怖によって、吹き飛ばされてしまう。

他のすべての政治的関心事——すべての訴訟や罰則など——は、眠らせずに叫び続ける 24 時間のニュースの話題によって、完全に一掃される。

歴史を考えよ——第一次大戦

第一次大戦は単純な行動がきっかけだった——1914年6月28日、オーストリアの指導者フランツ・フェルディナンド皇子の暗殺という事件だった。

一つの政治的な死が、その全過程を出発させるのに十分だった。

フェルディナンドの血に染まった、弾丸の穴のある軍服が、今日にいたるまでいまだに展示されている。

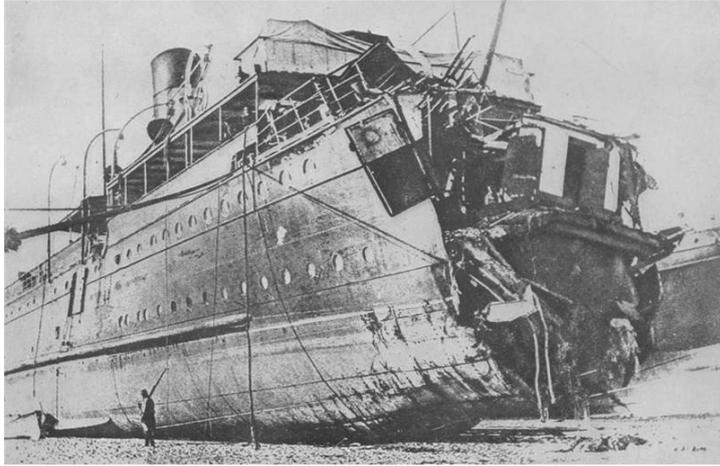


一か月もしないうちに、戦争がヨーロッパ全土に野火のように広がった。



アメリカ合衆国が引き込まれたのは、1915年5月8日、ドイツのUボートが、定期客船ルシタニア号を魚雷攻撃し沈没させた時だった（リンク）。





アメリカは実際は、1917年まで戦争行動に入らなかった。しかしこの大破壊的イベントは、彼らを駆り立てた最初の大きな挑発であった。

第二次世界大戦

アメリカの第二次大戦への参加は、353機の日本の飛行機が、1941年12月7日、アメリカの最大の太平洋軍事基地、ハワイの真珠湾を攻撃したときだった。

2,402人のアメリカ人が死に、1,282人が負傷した。188機の米航空機が破壊され、8隻の戦艦、3隻の巡洋艦、1隻の対空戦艦、1隻の水雷敷設艦が、損傷を受けるか破壊された。





STATE HISTORICAL ST. CAMP
MADISON, WIS.

THE WEATHER
For a complete weather forecast
and other information
See Page 1

MANITOWOC HERALD-TIMES
MANITOWOC, WIS., MONDAY, DECEMBER 8, 1941
Fifth Year
Telephone
DIAL 4437

U.S. DECLARES WAR

Pearl Harbor Naval Base

Congress Acts Quickly in Reply to Japanese Attack

County Has Many in Pacific War Sector

Box Score
Only One Member of Congress, a Woman, Votes Against War After Roosevelt Calls for Action in Message of Lamentation

BULLETIN
The U.S. House of Representatives today passed a resolution declaring war on Japan by a vote of 386 to 1. The Senate followed suit by a vote of 89 to 2.

Big Tank Battle On
Heavy fighting continues in North Africa Desert

State Men Are Killed
Two men from Wisconsin die in attack on Hawaii

Mine Workers Win Battle For Union Shop
The United Mine Workers of America today won a major victory in a long struggle for recognition as the bargaining agent for miners in the bituminous coal fields of the United States.

Britain Becomes Ally of U.S. in War Upon Japan
The British government today announced that it had declared war on Japan.

Negotiate With Japs
The United States today announced that it was willing to negotiate with Japan.

The WAR TODAY

The Weather

Annual Presentation of Jay Birds in New York

ドイツとイタリアが、ほんの4日後、12月11日にアメリカに宣戦を布告した。



アメリカはこれを受けて、直ちにドイツとイタリアに宣戦を布告した——日本とはすでに戦闘状態に入っていた。



我々の宇宙の旧来の考え方によく似て、アメリカの第二次大戦への参加はビッグバンで始

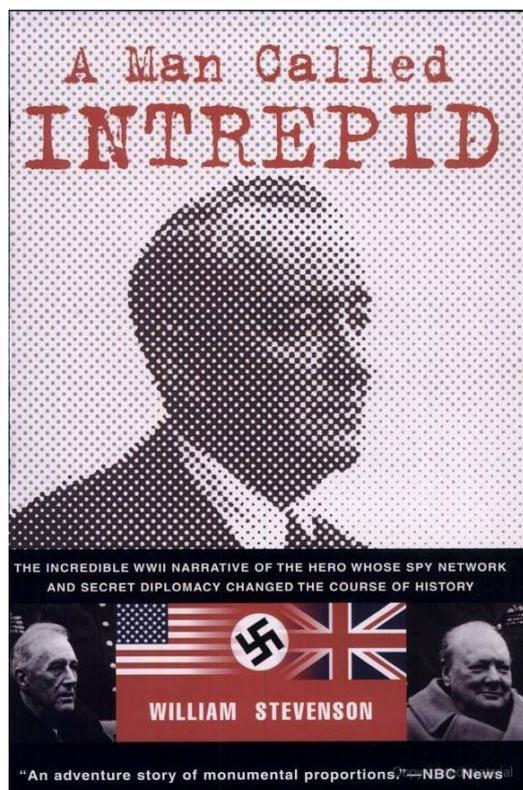
まった。

真珠湾の破壊は、その前のオーストリア指導者の暗殺や、ルシタニア号の沈没のときより、さらに敏速にアメリカを戦争に引き込んだ。

恐れ知らずと言われた男——元祖ジェームズ・ボンド

警告の書『恐れ知らずの男』(*A Man Called Intrepid*, [リンク](#))を書いたイギリスのスパイ、ウィリアム・ステューヴンソンによれば、イギリスとアメリカは、密かにアメリカを戦争に巻き込むべく画策をしていた。

Sir William Stevenson は、第二次大戦での西半球全体に対する、英国諜報部長であり——イアン・フレミングのジェームズ・ボンドのモデルになった人である。



アメリカを第二次大戦に引き込むことが、なぜ必要だったのか？

ヒトラーは 1936 年秋のポーランド侵攻以来、ヨーロッパを荒らしまわっていた。

アメリカは、外国での恐ろしい敵との戦争に巻き込まれたくはなかった——愛する同盟国を守るためであっても。

欺瞞の日

パール・ハーバーは、アメリカ人を最終的に十分に激怒させ——祖国のために戦って死のうと思うほどに——戦争参加を決意させた事件だった。

「情報の自由」法によって解放された 20 万点以上の政府文書の調査を含む、一人の男による 16 年に及ぶ研究のおかげで、我々は今、**フランクリン・ルーズベルトが、パール・ハーバーが確実に攻撃されるようにしたことを知っている。**

彼はそのために、日本に対して石油制裁を行い、急速にこの国を破滅に追い込むような、いろいろな方法によって日本を挑発する手段を取った。

あなたは 3 つのどのカテゴリーに入りますか？

F・ルーズベルトが意図的に日本人を挑発して真珠湾を攻撃させた問題について、あなたはおそらく 3 つの陣営の一つに入るであろう。

あなたはすでにそれを知っているか、全くあり得ることだと思っているか、これを完全に笑うべきことだと思うかのいずれかであろう。

にもかかわらず、F・ルーズベルトの大逆罪は、広範囲な文書記録によって**法的に証明されている。**

その証明は、法的訴訟で有罪を立証するのに要求されるどんな要件をも、十分に超えている。

ルーズベルトがそれを起こさせた

日本人には知られることなく、彼らの通信は傍受されていた——そして彼らの暗号はすべて読まれていた。

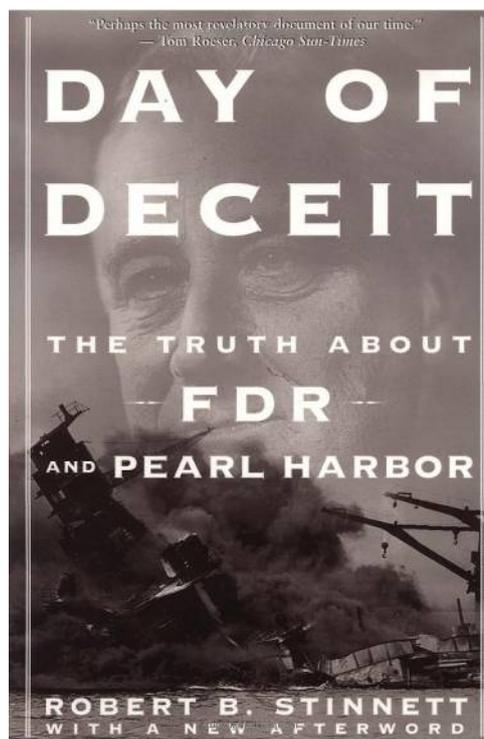
日本人は完全に監視された状態で、秘密はなかった。彼らは、自分たちの情報の安全が危険にさらされていることを、完全に知らなかった。

ひとたびルーズベルトが、日本人が餌に飛び付いたことを知ると、彼は、真珠湾攻撃の危険が迫っているというインサイダーたちの警告をすべて退けた。

フランクリン・D・ルーズベルト大統領は、全く無抵抗状態で、日本軍に真珠湾を攻撃させた。

このことは、第二次大戦の退役軍人でもある Robert B. Stinnett によって結論的に事実であることが証明された。その結果は、2002 年の本 *Day of Deceit* (欺瞞の日) に公表された。

この表紙からわかるように、シカゴ・サンタイムズ紙はこれを「我々の時代のおそらく最も暴露的なドキュメント」と呼んだ。



スティネットの結論の要約を自分で読んで下さい

ここにスティネットの本の公的な要約がある――

ロバート・スティネット著『欺瞞の日』

<http://www.amazon.com/exec/obidos/ASIN/0743201299/theindepende-20>

Day of Deceit においてロバート・スティネットは、**アメリカの最大の秘密**と、我々の最悪の軍事悲劇について、決定的な最終章を書いている。

20年におよぶ研究と、以前には極秘だった多数の記録文書から得たものに基づいて、スティネットは「パール・ハーバー」は、アクシデントでも、アメリカ諜報部の失敗でも、すばらしい日本の軍事快挙でもなかったことを証明している。

この攻撃への警告がルーズベルトの机に山と積まれていたこと、さらには、日本を戦争に押しやる計画が、米政府の高いレベルで考えられたものであることを示すことによって、彼は、アメリカ史の最も重要な出来事の一つと考えられているものを、深く考え直させる結論を提示している。

16年の研究と20万以上の記録文書

「インデペンデント研究所」は2002年3月11日、9.11の初期の余波の中で、スティネットの仕事を次のような論文で見事に要約した。

「情報の自由」法書類は、ルーズベルトが「パール・ハーバー」をあらかじめ知っていたことを証明するか？

<http://www.independent.org/newsroom/article.asp?id=408>

スティネットによれば、パール・ハーバーの謎に対する答えは、「情報の自由」法の要求によって彼が獲得できた、膨大な数の記録文書の中に見出される。

次々に入ってくる暗号解読の電文、アメリカが傍受していた多くの軍事メッセージは、日本の軍艦が戦争の準備をしており、まっすぐにハワイに向かっていることを、はっきり示していた。

作家、ジャーナリスト、第二次大戦の軍人だったスティネットは、16年を費やして国の保管文書を徹底的に調べた。

彼は20万点以上の文書を読みあさり、何十回ものインタビューに応じた。

この綿密な研究はスティネットを確固たる結論に導いた：——ルーズベルトは知っていた。

主流合同テレビ報道からの完全な報道管制

ここにリンクした記事の全文を読んでみれば、スティネットとのインタビューの、次の2つの質問が特別に重要であることがわかるだろう——

「報道の自由」法書類は、ルーズベルトが「パール・ハーバー」をあらかじめ知っていたことを証明するか？

<http://www.independent.org/newsroom/article.asp?id=408>

問い：あなたの本は、主流メディアからどのような注目を受けましたか？ あなたが予想していたような注目を受けましたか？

スティネット：ほとんどの主流印刷メディアは、『欺瞞の日』のすばらしい書評を書いてくれました。ニューヨーク・タイムズ、ウォールストリート・ジャーナル、サンフランシスコ・クロニクルなどです。

主流テレビは取り上げてくれません。例外はこれまでのところ、C-Span, PAX TV, それに地方のテレビ局です。ABC、CBS、NBC、CNN、Fox News などは一言も触れていません・・・

問い：あなたの本の中の情報が重要だと考えるのは、なぜですか？

スティネット：それが重要なのは、アメリカ政府のある人々が、どれだけアメリカ国民を騙して——この言論の自由の国で——この恐ろしく重要な情報をいかに国民に隠すことができるかを示すものだからです。それは私の信念に全く反するものです。

第二次大戦だけではない

少し考えてみていただきたい。フランクリン・ルーズベルトは「パール・ハーバー」が起こるのを知っていた——そしてそれを止めようとしなかった——ことが、確実な反論できない事実として今証明された。

この記事の下コメントまで読み続けていくと、2014年1月22日の Haddington O'Heart からの次の抜き書きが見つかる。

オハートがここで言っているように、スティネットの文書は、アメリカの役人が第一次大戦やベトナム戦争を始めるときも、同じ引き金をつくり出したことを証明している。



Haddington O'Heart

For the cadre of knee-jerk naysayers and armchair debunkers regarding "conspiracy theories", comes the book by Robert B. Stinnett -- Day of Deceit: The Truth about FDR and Pearl Harbor. The Freedom of Information Act was used to reveal "smoking gun" evidence of Roosevelt's foreknowledge on the Dec 7, 1941 Pearl Harbor Attack by the Japanese. The book goes on to cite clear Allied deceit involved in the sinking the of the Lusitania before WWI, and the made-up Gulf of Tonkin incident by President Johnson during the Viet Nam era... And you STILL think there's no possibility of 9/11 "Inside Job"??

Reply · Like · Follow Post · January 22 at 10:58pm

この最後の 2 つの文章を、そのままここに入れておくことにしよう——ポイントがよく掴めるように——

[スティネットの] 本は続けて、第一次大戦まえのルシタニア号沈没にも、ベトナム戦争中のジョンソン大統領による、でっち上げのトンキン湾事件にも、明らかに共謀の騙しがあったことに言及している。…それでもあなたは、9.11 が“インサイド・ジョブ”（内部犯行）であった可能性はないと言うだろうか？

証明された事実であれば、それは“陰謀論”ではない

政治的リーダーを暗殺する、船を爆破する、敵を刺激して攻撃させる、完全な事件の捏造、といった比較的単純な行動が、大規模な戦争をスタートさせるのに用いられてきた。

これは“陰謀論”ではない。証明された事実である。

我々はそれでも、誰がそれをやっているのか、なぜなのかについて論争することができる。しかしそれがなされたという、絶対的な、反論できない証拠を我々は持っている。

また、このように考え行動する人々が単にいなくなったとか、同じような計画はもうしないとか、考えるべき理由はない。

ノースウッズ作戦：中でも最高にショッキングな例

2001年5月1日、あの“考えられない”9.11の恐怖のちょうど4か月前に、ABCニュースは、中でも最も忌まわしいストーリーをすっぱ抜いた。

アメリカに対するニセのテロリスト攻撃を起こす計画が、アメリカ陸海空軍統合参謀団（Joint Chiefs of Staff）によって承認され、ケネディ大統領自身だけがこれを阻止した。

陸軍、空軍、海軍、海兵隊という軍部門は、それぞれそれを指導するナンバーワンの将官をもっている。これらの将官のほとんどは、「参謀長」と呼ばれている。

彼ら是一緒にして「統合参謀団」と呼ばれ、“閣僚”として知られる大統領の諮問委員会の中核部分を形成する。

海兵隊は、専門的には米海軍の中の一部門である。沿岸警備隊もまた陸軍の一部門だが、ケネディ政権の間は、統合参謀団に代表を出していなかった。

この統合参謀団の計画は「ノースウッズ作戦」(Operation Northwoods) というコードネームを与えられていた。彼らの計画は、合衆国内とその周辺で演じられるニセのテロリズムを要求していた。

これは“ニセ旗作戦”(false flag operation) と呼ばれる。すなわち、自分で自分を傷つけ、これを敵の仕業にするものである。こうすれば彼らを攻撃するりっぱな理由が得られる。

このアメリカの最高位の将官たち——沿岸警備隊を除くすべての部門から出ている——は、罪のないアメリカ人を殺して、これをキューバになすりつける計画をしていた。

旅客機をハイジャックしてアメリカの都市を攻撃する

この統合参謀団は本物の災害をつくり出そうとしていた——グアンタナモ湾でアメリカの船を爆破するとか、あるいは旅客機をハイジャックして、それをアメリカの都市にある標的を攻撃するのに使う、といったものだった。

これは、新しい戦争を始めるための「国民の義憤という好都合な波」をつくり出すことを期待したものだった。

この当時、彼らの主たる標的は、アメリカに一番近いソ連の同盟国、キューバであった。それはフロリダ海岸から 90 マイルしか離れていない。

これらのニセの攻撃を、今度は、急速にソ連との戦争に発展させ、第三次大戦を始めるのに利用することができる。

あの時、もし第三次大戦が起こっていたら、それはあまり長くは続かなかったかもしれない。地球は、犯人たちが地下に隠れている間、闇の中で燃え続けるだろう。

間違わないでいただきたいが、これは陰謀サイトから引いたものではない。これは 2001 年 5 月 1 日の ABC ニュースの印刷室から来たホットな記事である。

The screenshot shows the ABC News website interface. At the top, there is a navigation bar with 'abcNEWS' logo and links for HOME, VIDEO, U.S., WORLD, POLITICS, ENTERTAINMENT, TECH, and HE. Below this is a secondary bar with 'NOW' and several news items: FORT HOOD SHOOTING, CHILE EARTHQUAKE, SUPREME COURT, and MALAYSIA. The main article is titled 'U.S. Military Wanted to Provoke War With Cuba' and is dated 'NEW YORK, May 1, 2001'. The author is David Ruppe. The article text discusses plans from the early 1960s to use terrorism in U.S. cities to gain support for a war against Cuba. It mentions 'Operation Northwoods' and details of the plans, including the assassination of Cuban émigrés, sinking boats, hijacking planes, and blowing up a U.S. ship. It also notes that the plans were approved by the Joint Chiefs of Staff but rejected by the civilian leadership. A quote from reporter James Bamford is included at the bottom.

abcNEWS HOME VIDEO U.S. WORLD POLITICS ENTERTAINMENT TECH HE

NOW FORT HOOD SHOOTING • CHILE EARTHQUAKE • SUPREME COURT • MALAYSIA

U.S. Military Wanted to Provoke War With Cuba

NEW YORK, May 1, 2001

By David Ruppe

In the early 1960s, America's top military leaders reportedly drafted plans to kill innocent people and commit acts of terrorism in U.S. cities to create public support for a war against Cuba.

Code named Operation Northwoods, the plans reportedly included the possible assassination of Cuban émigrés, sinking boats of Cuban refugees on the high seas, hijacking planes, blowing up a U.S. ship, and even orchestrating violent terrorism in U.S. cities.

The plans were developed as ways to trick the American public and the international community into supporting a war to oust Cuba's then new leader, communist Fidel Castro.

America's top military brass even contemplated causing U.S. military casualties, writing: "We could blow up a U.S. ship in Guantanamo Bay and blame Cuba," and, "casualty lists in U.S. newspapers would cause a helpful wave of national indignation."

Details of the plans are described in *Body of Secrets* (Doubleday), a new book by investigative reporter James Bamford about the history of America's largest spy agency, the National Security Agency. However, the plans were not connected to the agency, he notes.

The plans had the written approval of all of the Joint Chiefs of Staff and were presented to President Kennedy's defense secretary, Robert McNamara, in March 1962. But they apparently were rejected by the civilian leadership and have gone undisclosed for nearly 40 years.

"These were Joint Chiefs of Staff documents. The reason these were held secret for so long is the Joint Chiefs never wanted to give these up because they were so embarrassing," Bamford told ABCNEWS.com.

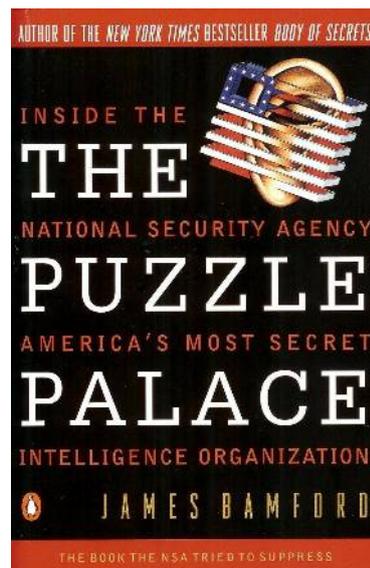
21k
Like
9072
Share
670
Tweet
56
+1
10 Comments

James Bamford 著 *The Puzzle Palace* は、最初の大規模な NSA 暴露だった

オリジナルの文書を含めた「ノースウッズ」資料が、ジェイムズ・バムフォード——1983年の古典 *Puzzle Palace* (謎王宮) の著者——にひそかにリークされた。

NSA は、*Puzzle Palace* が出版されるのを阻止するため激しい戦争を仕掛けた——そして一時は書店からこれを撤去させたが、彼らは戦いに敗れた。

ニューヨーク・タイムズによれば、「現在 (1983) まで、誰もこの機関について包括的な、詳しい報告をした者はいない」。



この知識は、これが主流になるずっと前に手に入れることができた

バムフォードの本の 1997 年の改訂版に対するアマゾン自身のレビューは——この情報のほとんどが共有の知識となった今——貴重な説明になっている。

James Bamford's *The Puzzle Palace*: Amazon Review

http://www.amazon.com/The-Puzzle-Palace-Intelligence-Organization/dp/0140067485/ref=sr_1_3?ie=UTF8&qid=1396663643

1947年、アメリカ、連合王国、カナダ、オーストラリア、それにニュージーランドがある秘密の条約にサインした。その内容は、これらの国が暗号諜報の問題で協力するというものだった。

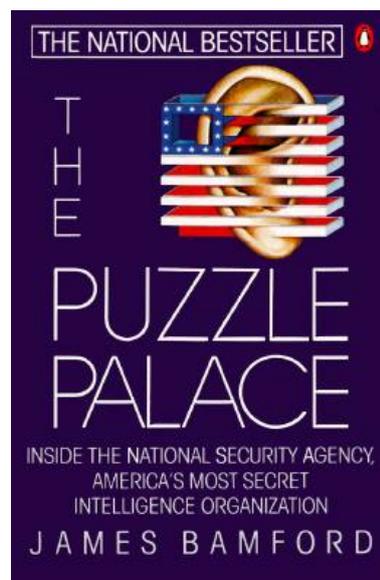
基本的には、諸政府が、中国、ソ連、その他の、冷戦の悪者たちの電子通信を聴き取るために、それぞれの地理的かつ技術的な資産をプールすることに同意するというもので、これはすべて真理、正義、そしてもちろん、アメリカのやり方の利益のためであった。

肝心なことは、このシステムが明らかに、すべてをキャッチすることである。

アメリカの国家安全保障局（NSA）にリードされる諸政府の安全保障局が、地球の通信ネットワークを流れる、声とデータの大部分（おそらく全部）を、ふるいにかけることになる。

50年後、ヨーロッパ連合（EU）は、NSAによる、その市民のプライバシー権利侵害の可能性を調査している。

権利擁護団体である「電子プライバシー情報センター」が、NSAを相手に訴訟を起こし、この組織が不法にアメリカ市民をスパイしていると申し立てている。



James Bamford's *The Puzzle Palace* : Amazon Review

http://www.amazon.com/The-Puzzle-Palace-Intelligence-Organization/dp/0140067485/ref=sr_1_3?ie=UTF8&qid=1396663643

超秘密のスパイ機関という事情があつて、このNSAで本当のところ何が行われているのか、その手掛かりさえ得ることは難しい。

しかしジェイムズ・バムフォードは *Puzzle Palace* において、この機関の起源と冷戦時代の活動を記録する、大きな仕事をなした。

最も初期の暗号研究から始めて（暗号作りと暗号解読はNSAの仕事の大きな部分）バムフォードは、この機関の先人たちが第二次大戦で、ドイツの“エニグマ”マシンを読み解き、日本の“パープル暗号”を破って、いかに貢献したかを説明している。

バムフォードは、綿密に研究した歴史的な、技術的資料をふまえて、NSAの技術がいかに容易く、世界の民主主義を阻害することができるかを説明している。

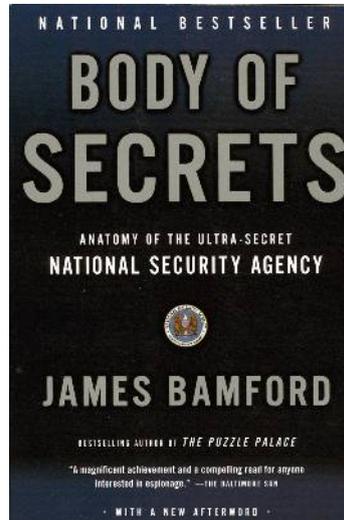
バムフォードは米上院議員フランク・チャーチを引用する——「もしこの政府が専制主義国家になったら・・・その諜報共同体が政府に与えた技術的能力が、大いに役立って成功することだろう。

「これと戦う方法はなかろう。なぜなら、政府に抵抗してどんなに注意深く団結しようとしても、それは政府の把握の範囲内だからである。」

これは恐ろしい話だ。——David Wall

「ノースウッズ」文書は、バムフォードの2001年の本 *Body of Secrets* に初めて出た

「ノースウッズ」記録文書は、バムフォードの2001年の驚くべきNSA暴露本 *Body of Secrets*（秘密の身体）に初めて公開された。



バムフォードはNSAについては遥かに先を行っていた

ここに「出版者ウィークリー」に出た 2001 年の *Body of Secrets* のレビューがある——

http://www.amazon.com/Body-Secrets-James-Bamford-ebook/dp/B001334IXS/ref=sr_1_1?ie=UTF8&qid=1396504922&sr=8-1&keywords=body+of+secrets

国家安全保障局（NSA）はアメリカを“盗み聴き超大国”にした、とバムフォードは言っている。それは“信号諜報”通信を——それがどんな形で存在しようと、どこかの国から発信されようと——捕え、解読し、分析することができる。

しかしそれは、そのもっと有名な兄弟であるCIAをはるかに凌ぐ予算（年 40 億ドル）と人員（数万を数える）をもち、その自己充足的な共同体である Crypto City（暗号市）と呼ばれる本部をもち、国民の間ではNSAはほとんど知られていない。そしてもっと気がかりなことに、政府の他の部署でさえ知られていない。

NSAの秘密、その歴史と活動のヴェールを剥ぐことが、バムフォードのライフワークとなった。それは、彼の今は古典となった *Puzzle Palace* (1982) から始まり、現在のかなり改訂され拡張された版として続いている。

高度に敏感な文書や情報への驚くほどのアクセスによって、バムフォードは読者を、初期冷戦時代から、キューバ・ミサイル危機、ベトナム戦争のような分水嶺的出来事での役割を通して、今日のNSA内部で起こっている情報技術の驚嘆すべき進歩にま

で案内してくれる。

バムフォードが発見するものは、時には驚きであり、しばしば不安を与えるが、しかし常に人を引き付ける。

その結論において、彼は畏怖を覚えるとともに、現在NSAがなし得ることに深い不安を感じている——とめどもなく進歩する監視技術は、個人のプライバシーという基本的な人権への、より大きな攻撃を意味すると考えられるからである。

5兆ページのテキストを蓄えることのできるコンピューター装置なら、誰であろうとすべての者をモニターすることができる。…これはスパイ・スリラーの材料だ。

信じられない——にもかかわらず真実

読者はNSAについてはすでに知っている——しかし、もしあなたが前に「ノースウッズ」情報を見たことがなければ、あなたはひどくショックを受けているかもしれない。

米議会議員の誰か少なくとも一人が、これら「ノースウッズ文書」が、彼の本の2001年5月の発売に間に合うように、バムフォードにリークされるように計らった。

これらのドキュメントは再び、戦争を起こすために、**旅客機をハイジャックし、それを使ってアメリカの都市を攻撃する**という、1962年の計画を明らかにするものだった。

このリークは単なる偶然の出来事だったのだろうか？ それともそれは、近い将来に似たような攻撃を予想した——そしてそれを阻止したかった——ある秘密の同盟の演出したものだったのだろうか？



ここまで読んでこられた読者は、もう読むのをやめて、もっとやさしく、穏やかで、単純な世界観を維持したいものだと感じているかもしれない。

多くの他の人々は“メッセンジャーを攻撃する”ことを選んで、報告者の語ることにケチをつけようとするかもしれない——その方が事実を見るよりはるかに楽だから。

人々がこんな風に考えて行動する——人の命を全く消耗品として扱う——ことができると信ずるのは全く不可能であるために、この真理を受け入れることはきわめて困難かもしれない。

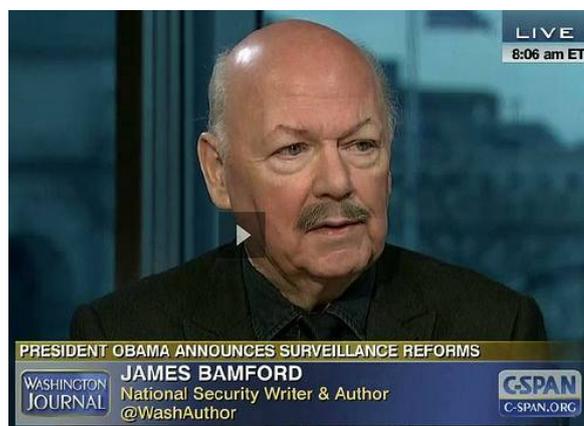
にもかかわらず、ほぼ男性の4%、女性の2%がソシオパスであって、彼らが良心なしに行動することができるというのは、確証された事実である。

彼らの大多数は暴力的ではない。しかし暴力的なサイコパスは本当に危険な人々である。彼らは他者を苦しませ殺しても、何の同情も感じない。

「陰謀団」は本当に、世界最大の、最古の、最も幅広く組織された——何世紀も前から社会病理的な人々によって運営されてきた——犯罪シンジケートである。

ジェイムズ・バムフォードは今、その信頼性を新たに発見されて——C-Span に出演している

この写真は、この爆発的な本の著者 James Bamford が C-Span に出演している。今やつと、スノーデン事件の後で、彼の強烈なNSA暴露が共有された知識となった。



Joint Chiefs（米陸海空軍統合参謀団）は戦争遂行のためには、ジョン・グレンをも犠牲にしようとした

このような行動を押し量れない我々の無能さが、まさに、この同じグループの人々と彼らの子孫たちが、なぜ、これほど長く我々を支配することができたかのを、説明するかもしれない。

John Glenn のような愛されたアメリカの宇宙飛行士でさえ、次の世界大戦を始めるためには、何の苦もなく犠牲にされようとした。

ABCの画期的な 2001 年の記事の、次の抜き書きをご一読願いたい——

米軍部が、キューバとの戦争を挑発するために、偽テロリスト攻撃を計画
<http://abcnews.go.com/US/story?id=92662>

コード名を「ノースウッズ作戦」(Operation Northwoods) という計画が、キューバ人移民の暗殺、キューバ亡命者の船舶の公海上での撃沈、飛行機のハイジャック、米艦船の爆破、それに米都市での暴力テロの同時発生をも含んでいたことが、伝えられ

ている。…

アメリカのトップの軍の将官たちは、アメリカ軍に死傷者を出させることさえ考えていた——「我々はグアンタナモ湾で米国軍艦を爆破し、これをキューバのやったことにすることができる」、そうすれば「アメリカの新聞の死傷者リストは、好都合な国家的義憤の波を起こさせることになる。」



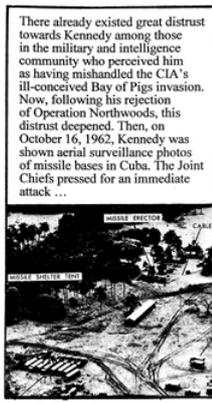
この計画の詳細は、James Bamford の *Body of Secrets* (Doubleday 出版) に詳しく書かれている。これは調査報告記者バムフォードの新刊書で、アメリカ最大のスパイ機関NSA（米国家安全保障局）の歴史を扱っている。

ただし、この計画はNSAにつながってはいなかった、と彼は言っている。

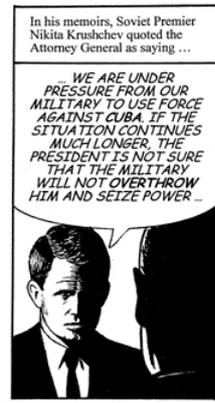
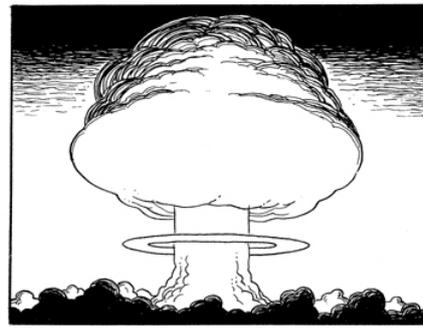
Joint Chiefs of Staff（統合参謀団）は、宇宙飛行士のジョン・グレンを、アメリカ人を軌道に乗せる最初の試みで、彼の想定される死をさえ、キューバとの戦争の口実を利用する提案をしていた、とこのドキュメントは明らかにしている。

万一、ロケットが爆発してグレンが死ねば、「それは、キューバなどの共産主義者を非難するための、消すことのできぬ証明として利用することができる。」…

OPERATION NORTHWOODS by Mack White



In the nuclear exchange with the Soviet Union that would have followed such an attack, more than 300 million human beings worldwide would have been killed. Fortunately, Kennedy resisted the pressure to attack and instead sent his brother, Attorney General Robert Kennedy, to meet with Soviet Ambassador Anatoly Dobrynin ...



役者たちに会うことにしよう

統合参謀団は、軍の各部門の最高位のメンバーたちである。彼らはアメリカ合衆国大統領に直接、報告をする。

彼らの顔を見てみよう。これらの人物の全員が、ヤラセのテロに完全に合意したこと、そしてその計画を、ジョン・F・ケネディに提出したことを忘れてはならない。



ライマン・L・レムニッツァー (Lyman L. Lemnitzer) 将軍、陸軍、陸海空統合参謀本部議長



ジョージ・デッカー (George Decker) 将軍、陸軍参謀長



カーチス・E・ルメイ (Curtis E. LeMay) 将軍、空軍参謀長



ジョージ・W・アンダーソン (George W. Anderson) 提督、海軍作戦本部長



デイヴィッド・M・シャウプ (David M. Shoup) 将軍、海兵隊総司令官



ジョン・F・ケネディ大統領、「ノースウッズ作戦」の参謀たちとともに——左からルメイ、レムニッツァー、大統領、デッカー、アンダーソン、シャウプ

ランズデールが「ノースウッズ作戦」を要求した

「ノースウッズ」の文書を読むと、陸海空軍統合参謀団のほかにも参加していた者がいたことがわかる。

キューバを侵略する口実を作るための計略の要求は、もともと Edward Lansdale 准将から出ている——



エドワード・ランズデール准将、キューバ・プロジェクト作戦主任

2人の参謀団秘書もまた直接、関わっていた

「ノースウッズ作戦」文書で「心得た共犯者」と言っている2人の秘書は、Francis J. Blouin 海軍少将と、Michael J. Ingelido 准将である——



フランシス・J・ブルーイン海軍少将、米海軍水陸両用軍司令官、参謀団秘書



マイケル・インゲリドー准将、空軍、参謀団秘書

デッカーはクビになり、ホイラーにすげ替えられる

1962年9月30日、ケネディは「ノースウッズ作戦」を拒否して6カ月後に、陸軍参謀ジョージ・デッカーを解任し、代わりに Earl Wheeler 将軍を任命した。



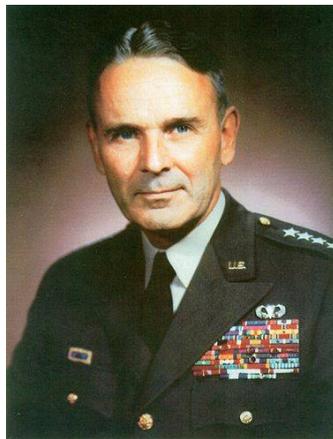
Earl Wheeler 将軍、陸軍参謀

レムニツァーがクビになり、ケネディお気に入りのテイラーに代わる

ケネディはまた、この深い憂慮を与える計画を聞いて 1 年足らず後、統合参謀団議長の Lyman L. Lemnitzer 将軍を解任した。

1962 年 10 月 1 日、ケネディは、レムニッツァーに代わる新参謀団議長として Maxwell D. Taylor 将軍を任命した。

JFK と彼の弟ロバートとともに、テイラー将軍が「疑うべくもない正直さ、誠実、知性、外交能力」(リンク) の持ち主だと感じていた。



マックスウエル・テイラー将軍、陸軍、参謀団議長

レムニッツァーとデッカー解任後の、参謀団の合同写真

ケネディが、テイラーを新参謀団議長として、またホイーラーを陸軍参謀として任命した直後の参謀団の写真が 2 枚ある。

最初の写真では、テイラーが誰よりもケネディに寄り添っているのがわかる。またテイラーは敬意から、右肩をケネディの後ろにして立っている。

比較してみると、カーチス・ルメイ将軍は硬直し、身体のどの部分もケネディに触れないようにしている。

また左側のシャープ、ホイーラー、ルメイのボディ・ランゲージを見るがよい。彼らは腕を接触させて固まっているように見える。



1962 年末の参謀団の写真

次は、テイラー任命直後の、ホイーラー、ルメイ、テイラー、アンダーソン、シャウプの合同写真である。

テイラー（中央）は目に見えて自信ありげで、希望と期待に満ちた様子で手を組んでいる。

それと比べると、テイラーの左隣のルメイは目に見えて硬直し、不信の態度が見える。彼は肩をいからせ、ほとんどテイラーから怯むように不快の様子で、眉をつりあげている。



軍部は「ノースウッズ作戦」失敗後も諦めなかった

この文字通り爆発的なABCによる暴露記事を読みつづけると、「ノースウッズ作戦」が失敗した後も、彼らは他の計画を検討しつづけていたことがわかる。

統合参謀団は相変わらず、主たるスタッフが更迭や解任されたあとも、このソシオパス的な計画を発展させていた。

米軍はキューバとの戦争を挑発するために、偽テロ攻撃を画策した

<http://abcnews.go.com/US/story?id=92662&page=1&singlePage=true>

その当時、統合参謀団は、アイゼンハワーの任命した陸軍元帥ライマン・レムニッツァーに率いられており、彼は1963年3月13日、署名された計画書をもって、マクナマラに持ちかけ、ノースウッズ作戦が軍によって遂行されるべきだと言った。…

[ノースウッズ後も] 統合参謀団は、少なくとも1963年までは、“口実”作戦を計画しつづけた。

一つの案は、キューバとラテン・アメリカの別の国で戦争が起こるようにし、アメリカがそこに介入するというものだった。

また別の案は、カストロ政府の誰かにカネを払って、グアンタナモ海軍基地のアメリカ軍を攻撃させるというもので、これは国家反逆罪になる、とバムフォードは言っている。

さらにもう一つは、キューバ上空に低空のU-2機を飛ばし、その一機が撃ち落とされたら、これを戦争の口実に用いるというものだった。

「この当時、アメリカには軍が狂いだしたという心配が本当にあり、その通りだったが、成功はしなかった。しかしその試みはなくならなかった」と、バムフォードは言う。

真理を知るのに 40 年かかった

軍のあらゆる人間が、このような国家謀反を支持したわけではない。上院の「外交問題評議会」の愛国的メンバーたちは、全体に漂う脅威を感じていた。これについては後述する。

さらには、NSAに関する当時の第一人者であった Bamford は、議会が任命した「暗殺記録レビュー委員会」(Assassination Records Review Board) 内部の誰かによって情報を与えられていた。

この完全に内部のインサイダーは、バムフォードがこれらの文書に何を見出すかを知っていて、どこを見ればよいかを教え、真理が明るみに出るようにした。

40 年後に、我々はやっとアメリカ史のこの暗い章の秘密を知った。

これはもし、米議会が 1992 年に、ケネディ暗殺への関心の余波を受けて、記録文書の極秘扱い解除の法案を通過させていなかったら、起こらなかったであろう。

米軍は、キューバとの戦争を挑発するために偽テロ攻撃を計画した

<http://abcnews.go.com/US/story?id=92662&page=1&singlePage=true>

上院の外交問題評議会は、軍部内の右翼過激派について、彼ら独自の報告を発表し、「軍関係者による教育と宣伝活動」における「かなりの危険」が明らかになったと警告した。

評議会は、レムニツァーと右翼グループの間のどんな関係であっても、調査することさえ主張した。しかし議会は「ノースウッズ」のことは気付かなかった、とバムフォードは言っている。

1992年、JFKについての映画が公開されてから、暗殺に関する一般大衆の興味が膨れ上がるにつれて、議会は、暗殺に関する政府の記録文書への一般のアクセスを、大きく緩めることを目指す法律を成立させた。

著者は、[議会の暗殺記録レビュー委員会の]ある友人が、記録文書の秘密を教えてくださいと言っている。

議会の調査を怖れて、レムニッツァーは、ピッグズ湾に関するすべての参謀団の文書を焼却するように命令した、とバムフォードは言っている。しかしどういいうわけか、これらが残ったのだ、と。

「恐ろしいのは、こうしたことが40年後まで現れなかったことだ」と彼は言う。

ケネディの腹心であったテイラー将軍は、この米大統領を暗殺するのに、同じような計略が用いられたと感づいたと思われる。

テイラーは心が葛藤し、初めてこの計画を聞いたときは受け流しながら、しかし文書の原コピーは隠し持っていたのではないだろうか？

文書を焼却せよというレムニッツァーの命令が無視されるには、トップにいる誰かが関与していなければならない。

インサイダーの誰も、それがテイラーだったと私に教えてくれたわけではなく、証拠はない。ただ状況に基づく強い推測である。

「ノースウッズ」文書そのものを読んでみることにしよう

いま我々が読んだ内容もかなり強力だが、もっとすごいもの、もっとよくわかるものがある。

最も強力な真相にありつけるのは、「ノースウッズ」の文書そのものを読むときで、それはこのPDF版で読める(リンク)。

370 便機に起こったこと、また今我々が、大きな戦争のヤラセについて学んだことに照らし

合わせてみると、いくつかの抜き書きは特別に重要なものに思えるだろう。

第一ページ

はじめに、この文書のトップ・ページを見ることにしよう。

これはもともと、高度に秘密扱いの文書だった。関係者用語でそれを **Top Secret Special Handling NOFORN** という。

Special Handling (取り扱い注意) とは、この文書が、可能なかぎり最も安全な場所にのみ保管されるということである。**NOFORN** とは、“**Not For Release to Foreign Nationals**” (部外者への開放厳禁) ということ。

この文書は、このグループの外部の誰にも見せてはならないものだった——議会の愛国者たちがこれを **declassify** し (極秘扱いを解き)、このようなハンコを押すまでは。

読者がこの文書を外国語に翻訳する必要があるときのために、ここにタイプ文書の写しを掲載しておいた (リンク)。



~~TOP SECRET SPECIAL HANDLING NOFORN~~

THE JOINT CHIEFS OF STAFF
WASHINGTON 25, D.C.

UNCLASSIFIED

13 March 1962

MEMORANDUM FOR THE SECRETARY OF DEFENSE

Subject: Justification for US Military Intervention
in Cuba (TS)

1. The Joint Chiefs of Staff have considered the attached Memorandum for the Chief of Operations, Cuba Project, which responds to a request of that office for brief but precise description of pretexts which would provide justification for US military intervention in Cuba.

2. The Joint Chiefs of Staff recommend that the proposed memorandum be forwarded as a preliminary submission suitable for planning purposes. It is assumed that there will be similar submissions from other agencies and that these inputs will be used as a basis for developing a time-phased plan. Individual projects can then be considered on a case-by-case basis.

3. Further, it is assumed that a single agency will be given the primary responsibility for developing military and para-military aspects of the basic plan. It is recommended that this responsibility for both overt and covert military operations be assigned the Joint Chiefs of Staff.

For the Joint Chiefs of Staff:

SYSTEMATICALLY REVIEWED
BY JCS ON 21 May 64
CLASSIFICATION CONTINUED

L. L. Lemnitzer
L. L. LEMNITZER
Chairman
Joint Chiefs of Staff

1 Enclosure
Memo for Chief of Operations, Cuba Project EXCLUDED FROM GDS

EXCLUDED FROM AUTOMATIC
REGRADING; DOD DIR 5200.10
DOES NOT APPLY

~~TOP SECRET SPECIAL HANDLING NOFORN~~

こうした攻撃は、世界の世論を好意的に動かすだろう

この最初の写しは、こうしたヤラセの (staged)、完全にニセモノのテロ攻撃によって、世界の世論が「好意的に動かされる」だろうと指摘している。

キューバ政府は、「向こう見ずで無責任で、警戒すべき、予測できない脅威」だという烙印を押され——これではアメリカは攻撃せざるをえないだろう、ということになる。

iable grievances. World opinion, and the United Nations forum should be favorably affected by developing the international image of the Cuban government as rash and irresponsible, and as an alarming and unpredictable threat to the peace of the Western Hemisphere.

似たようなニセのテロの提案が、他の省庁からも出されるだろう

次のこの写しでは、「他の省庁」もこれを基にして、アイデアの「似たような提案」をするだろうと言っている。これらの「他の省庁」には、NSA, CIAなどが当然、含まれるだろう——

2. The Joint Chiefs of Staff recommend that the proposed memorandum be forwarded as a preliminary submission suitable for planning purposes. It is assumed that there will be similar submissions from other agencies and that these inputs will be used as a basis for developing a time-phased plan.

事件の論理的な宣伝——これに一見無関係の出来事が結びつく

次の写しでは、「見たところ無関係の出来事」が演出され、これが「事件の論理的な宣伝」と結びつけられる、と言っている。

こうしたことをする目的は——米軍のすべての分野のトップ職員によって合意されたものだが——「米軍の介入に十分な正当性を与える」ことである。

彼らは、これらの破壊的出来事の罪をキューバに着せることによって「究極の目的をカムフラージュする」ことになる。

ここには「他の国」を攻撃して、これを彼らの選んだ敵の仕業にすることも含まれる。

3. This plan, incorporating projects selected from the attached suggestions, or from other sources, should be developed to focus all efforts on a specific ultimate objective which would provide adequate justification for US military intervention. Such a plan would enable a logical build-up of incidents to be combined with other seemingly unrelated events to camouflage the ultimate objective and create the necessary impression of Cuban rashness and irresponsibility on a large scale, directed at other countries as well as the United States. The plan would also

ニセのロシア/キューバのミグ戦闘機は、「約3か月」で造ることができる

次の写しでは、「うまく塗装したF-86」のような「アメリカの財産」があれば、これを、ロシア/キューバのMIG戦闘機に似せて改造することができる、と書かれている。

このニセの航空機は、次に、アメリカの資産への攻撃を演出するのに用いることができる。

「統合参謀団」はこれらの攻撃で、市民および/または兵士たちを殺す計画をしていた——この文書の別のところで言っているように。

6. Use of MIG type aircraft by US pilots could provide additional provocation. Harassment of civil air, attacks on surface shipping and destruction of US military drone aircraft by MIG type planes would be useful as complementary actions. An F-86 properly painted would convince air passengers that they saw a Cuban MIG, especially if the pilot of the transport were to announce such fact. The primary drawback to this suggestion appears to be the security risk inherent in obtaining or modifying an aircraft. However, reasonable copies of the MIG could be produced from US resources in about three months.

ごらんのように、「ほぼ 3 カ月」で、アメリカは「(ロシアかキューバの) MIG のもっともらしいコピー」を造ることができると言っている。

彼らは確かに、この計画を試みるには「安全上のリスク」があることを認めるが、彼らは明らかに、これを試みる意志をもっていた。

キューバ政府によって、当然、大目に見られるヤラセのハイジャック

次のこの写しでは、旅客航空機のような「民間の航空・陸上（水上）機」をハイジャックすることができると言っている。

これらの飛行機のハイジャックは、敵——この場合キューバ——の仕業にすることができる。

キューバの民間人や軍関係者が「純粋の逸脱行為」によって、飛行機や船を操縦してアメリカを攻撃することは、「奨励されるべきこと」である。

~~CONFIDENTIAL~~ ~~NOT FOR~~
UNCLASSIFIED

7. Hijacking attempts against civil air and surface craft should appear to continue as harassing measures condoned by the government of Cuba. Concurrently, genuine defections of Cuban civil and military air and surface craft should be encouraged.

「現実の民間航空機」の正確な複製をエグリン（Eglin）空軍基地で製造せよ

次の写しでは、民間の旅客機がマイアミから飛び立つが、結局は「正確な複製」とすり替わるのだと言っている。

その民間の航空機は、現実には「CIA 専売組織」すなわち看板だけの会社に属することにするが、一般人には決して分らないだろう。

この一見して深慮遠謀に思われる計画において、乗客はすべて内部者であり、「注意深く用

意された偽名」のもとに搭乗する。

このニセの客たちは、この飛行機が墜落したときには、全員死亡と考えられるだろう——そして新しいアメリカの悲劇を創り出す。

ひとたび元の飛行機が複製とすり替えられたときには、それは「無人機に変わっているだろう」。

a. An aircraft at Eglin AFB would be painted and numbered as an exact duplicate for a civil registered aircraft belonging to a CIA proprietary organization in the Miami area. At a designated time the duplicate would be substituted for the actual civil aircraft and would be loaded with the selected passengers, all boarded under carefully prepared aliases. The actual registered aircraft would be converted to a drone.

そこで元の飛行機と複製機がランデブーする

次の部分では、この2機のほとんど同じ飛行機が空中でランデブーする、と言っている。

偽名のもとに通常の乗客を装ったCIAの職員たちを乗せた「現実の飛行機」は、そこで「無人飛行機 (drone aircraft)」にすり替えられる。

乗客を乗せたこの飛行機は、そこで「最低限の低空飛行で、エグリンAFB[空軍基地]の補助飛行場の直行する」。

b. Take off times of the drone aircraft and the actual aircraft will be scheduled to allow a rendezvous south of Florida. From the rendezvous point the passenger-carrying aircraft will descend to minimum altitude and go directly into an auxiliary field at Eglin AFB where arrangements will have been made to evacuate the passengers and return the aircraft to its original status. The drone aircraft meanwhile will continue to fly the filed flight plan. When

乗客たち——すべて内部者——は、エグリン空軍基地に「疎開させられる (evacuated)」。

「無人航空機」はそこで「決められたフライト・プランに従って飛ぶ」ことになる。

これは、この飛行機が意図された目標に突っ込むことを意味する——おそらく破壊力を高めるために余分の爆薬を載せて。

アメリカ国民は、200 余名の民間人が死んだと信ずるだろう——彼らの一人ひとは、本物の人々に見えるように「注意深く用意された偽名」を使っていたから。

[どうか、これが 370 便機に起こったことだと私が思っているのではないことを、銘記していただきたい。第 2 部で明らかにするが、乗客たちは、モルディブの北の CIA 牢獄船に収容されているらしい。]

この場合には、本物の CIA 職員たちは、エグリン AFB を去って、社会に再び溶け込むことになる——彼らの正体はこの事件で決して見破られていないのだから。

プラン 9 : 空軍機が破壊されたように見える事件を演出すること

「プラン 9」は、アメリカ空軍機が、「公海水域で、挑発によらない攻撃を受けて破壊された」と一般大衆が信ずるような、ヤラセの事件を要求している。

これもまた、敵——この場合キューバ——の仕業にされる。

9. It is possible to create an incident which will make it appear that Communist Cuban MIGs have destroyed a USAF aircraft over international waters in an unprovoked attack.

「極端に高度を下げて」「安全な基地」へ飛び込め

「プラン9」を続けて読むと、F-101のパイロットが撃ち落とされたと、アメリカ国民には発表されることになっている。困窮状態にあるニセの音声が流されるだろう。

実際は、本物のパイロットは「極端に高度を下げて、直接、西へ飛び、安全な基地に着陸する」だろう。

次に「この航空機は、しかるべき人々に出迎えられ、直ちに格納され、新しい尾翼ナンバー」に塗り替えられるだろう。

「このミッションを偽名で遂行した[パイロットは]、再び彼の本来の名に戻り、通常の仕事場へ帰るだろう」。

calls would be made. The pilot would then fly directly west at extremely low altitude and land at a secure base, an Eglin auxiliary. The aircraft would be met by the proper people, quickly stored and given a new tail number. The pilot who had performed the mission under an alias, would resume his proper identity and return to his normal place of business. The pilot and aircraft would then have disappeared.

「潜水艦または小型船舶」を使って、「正確に同じ場所に」ニセの破壊破片をばらまけ

潜水艦か普通船舶を使って、「F-101の破片やパラシュートなど」を、「この航空機が撃ち落とされたと想定される、正確に同じ時間にばらまく」ことができる。

この高品質のニセの破片は、撃墜が起こったと言われている同じ場所に埋められるだろう。

出かけて行って残骸を見つけた正直なパイロットたちは、「彼らが知る限りの本当の話」をたずさえて空軍基地本部へ戻るだろう。

「探索船や探索機」がその後、彼らが一般に対して売りつけた話に符合する「航空機の部分」を見つけるだろう。

c. At precisely the same time that the aircraft was presumably shot down a submarine or small surface craft would disburse F-101 parts, parachute, etc., at approximately 15 to 20 miles off the Cuban coast and depart. The pilots returning to Homestead would have a true story as far as they knew. Search ships and aircraft could be dispatched and parts of aircraft found.

軍内部の他の誰からもこれを秘密にせよ

文書の最初の方から取ったこの最後の写真では、これが高度に極秘の作戦であることがわかる。

それはあまりにも極秘であるために、統合参謀団以下の、また彼らが一緒に仕事をしている職員以外の、誰もそれについて知ることは許されていない。

これについて知らせてはいけない軍の職員には、統合あるいは特定の司令部の司令官、NATO活動を委嘱されていた米官僚、国連の軍事スタッフ委員会のアメリカ自身の議長などが含まれていた。

統合参謀団と大統領自身より下のすべての者は、これらの計画について「知る必要のある立場」には全くなかった。

RECOMMENDATIONS

8. It is recommended that:

a. Enclosure A together with its attachments should be forwarded to the Secretary of Defense for approval and transmittal to the Chief of Operations, Cuba Project.

b. This paper NOT be forwarded to commanders of unified or specified commands.

c. This paper NOT be forwarded to US officers assigned to NATO activities.

d. This paper NOT be forwarded to the Chairman, US Delegation, United Nations Military Staff Committee.

ケネディの心中はどんなものだったか想像してみよう

ジョン・F・ケネディ大統領は、この文書のために——いろんなレベルにおいて——深く懊悩したに違いない。

かりにあなたがアメリカの大統領だったとし、あなたの掌握する軍のすべての部局を代表するトップ連中が、全く平然として、この計画を説明してくれたと想像してみるがよい。

もし、このような犯罪的な、国家反逆罪的な、殺人を伴う欺瞞的テロリズムが、アメリカ国民に対して用いられるとしたら、明らかに、どんなことも不可能ではなくなる。

ケネディは明らかに、自分自身の命が深刻な危険にさらされていると感じた。

彼自身の死が、「国民的義憤という好都合な波」をつくり出すために用いられかねない——と、あなたが見ているこの同じ文面を、彼は目で追いながら考えた。

b. We could blow up a drone (unmanned) vessel anywhere in the Cuban waters. We could arrange to cause such incident in the vicinity of Havana or Santiago as a spectacular result of Cuban attack from the air or sea, or both. The presence of Cuban planes or ships merely investigating the intent of the vessel could be fairly compelling evidence that the ship was taken under attack. The nearness to Havana or Santiago would add credibility especially to those people that might have heard the blast or have seen the fire. The US could follow up with an air/sea rescue operation covered by US fighters to "evacuate" remaining members of the non-existent crew. Casualty lists in US newspapers would cause a helpful wave of national indignation.

それほど信じがたいことではない

この文書の信頼できる“暴露”が、これまでなされなかったことを念頭におくべきである。

もともとジェイムズ・バムフォードが一般人に洩らしたNSAのデータが、今では共有の知識になっている。

ABCニュースが「ノースウッド作戦」文書をリークし、これを米議会議員が非常に深刻なものと考えて、バムフォードに選んで手渡したのだった。

「ノースウッド」データはまた、孤立したものではない。

“にせ旗”テロリズム (“false flag” terrorism) という「手」は、他の研究者たちによって、第一次と二次の世界大戦、ベトナム、それに、イラクに埋められようとしたニセ大量破壊兵器に共通するものとして、すでに明らかにされている。

もっと重要なことは、「ノースウッド作戦」の飛行機ハイジャックと、370便機の今現れつつある証拠の間に、著しい相似性があることである。